

ネットワーク型基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査研究・活用  
「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 ―日本文化発信にむけた  
国際連携のモデル構築―」基本計画

平成28年3月28日

人間文化研究機構

一部改定 平成29年4月 1日

一部改定 令和 2年4月 1日

1 ネットワーク型基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査研究・活用

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 ―日本文化発信にむけた  
国際連携のモデル構築―」の推進

機関名 国立歴史民俗博物館

代表者 日高 薫・教授

【研究概要】

本プロジェクトは、ヨーロッパ各地に現存する19世紀日本関連資料の調査をおこない、それらをデータベース公開、展示、シンポジウム、教育プログラム（セミナー・ワークショップ・大学教育等）など、多彩な方法により効果的に活用することによって、日本研究や日本文化理解を促進することを目的とする。以下の3つの異なる地域における異なるレベルの事業を、現地の博物館・大学などとの学術協力協定のもと、共同で展開することにより、日本・現地双方へ成果の還元を図るとともに、日本文化発信の国際連携モデルの構築を目指すものである。

(1) ハインリッヒ・フォン・シーボルト（以下シーボルト〈子〉）収集の「もの資料」及び文献資料の総合調査をもとに、データベース化、展示等の活用事業へと展開させるウィーンを中心としたシーボルト（子）収集日本関係資料の調査研究《資源基盤型》、(2) 博物館学芸員や教育普及担当者と共に、現地の実情やニーズに応じた日本展示を各地で実現させるイギリスにおける日本展示活性化事業《対話型》、(3) 現地大学及び博物館との連携による資料調査と展示協力を通じて、国内外の日本研究者の養成を支援するスイスにおける大学教育連携事業《人材育成型》の各事業を総括班のもとで推進する。

(1) ウィーンを中心としたシーボルト（子）収集日本関係資料の調査研究では、ウィーン世界博物館（以下ウィーン世界博）が所蔵するハインリッヒ・フォン・シーボルト収集の「もの資料」の悉皆調査をおこない、画像付データベースを公開するとともに、シーボルトの末裔であるブランデンシュタイン＝ツェッペリン家（以下ブランデンシュタイン家）所蔵のシーボルト父子関連文献資料の調査及び目録化、19世紀日本コレクションの形成にかかわる国際連携展示、国際シンポジウムの開催など、「時代の基

準となる資料群」の総合調査に基づく《資源基盤型》の日本文化発信をおこなう。

(2) イギリスにおける日本展示活性化事業は、日本資料の展示・活用方法を、現地の学芸員や教育普及担当者と共に検討し、モデルとなる展示（常設及び企画）を各地で実現させていく《対話型》の発信スタイルをとる。ウェールズ国立博物館（以下「ウェールズ国立博」という。）において、日本特別展を共同で開催する（平成29年開催予定）ほか、北部イングランドやスコットランドにおいては、ダラム大学東洋博物館、スコットランド国立博物館、ケルビングローブ美術博物館などにおける常設展示の構築に具体的に関わり、現地スタッフと対話を重ねながら、新しい展示手法、スタッフトレーニング、教育普及プログラムの開発などの事例を蓄積し、当該地域の日本展示の活性化を目指す。同時に城や貴族の居館を管理しているナショナルトラストとの協力事業を進める。

(3) スイスにおける大学教育連携事業は、現地大学及び美術館・博物館と協力関係を保ちながら、資料調査と展示協力の過程において、学生及び学芸員の教育やスキルアップを図るもので、現地において次世代の日本紹介を担うことのできる研究者の養成を手助けする《人材育成型》の事業を計画している。ジュネーヴ市立版画キャビネット（以下ジュネーヴ版画博）、ジュネーヴ市立アリアナ美術館（以下「アリアナ美術館」という。）、ルツェルン大学、チューリッヒの個人コレクションなどから提案された調査研究課題に対し、チューリッヒ大学東アジア美術史学科との協力のもと、諸事業をおこなう。

## 2 研究成果の公開・可視化

(1) 報告書・成果論集、シンポジウム、データベース等

### ①報告書・成果論集

- 1) ウィーン世界博所蔵シーボルト(子)コレクション調査報告書刊行、ブランデンシュタイン家所蔵のシーボルト父子関連文献資料調査報告書刊行（ともに平成33年度）
- 2) 英国ジャパンソサエティ出版局より英国での活動記録を刊行（平成33年度）
- 3) スイスで日本紹介をおこなう次世代研究者育成プログラムの報告書刊行（平成33年度）
- 4) ウィーン国際シンポジウム報告論文集刊行（平成31年度）

### ②シンポジウム・予稿集

- 1) ウィーンでシーボルト・コレクションに関する国際シンポジウムを主催、同予稿集を刊行（平成30年度）
- 2) 日本国内で日本関連在外資料に関わる国際学会を主催（平成29年度）
- 3) 日本資料の展示に関わるセミナーをイギリスの調査先機関と共催する（ウェールズ国立博〈平成29年度〉、ナショナルトラスト〈平成30年度〉、ダラム大学〈平成31年度〉）

等)

- 4) 第10回シーボルト・コレクション国際会議(長崎)の共催(平成28年10月)

### ③データベース

- 1) ウィーン世界博所蔵シーボルト(子)収集日本関連資料画像付目録を「データベースれきはく」上で一般公開(平成33年度)
- 2) ブランデンシュタイン家所蔵父子関係文献資料目録を「データベースれきはく」上で一般公開(画像付目録については館内利用のみの限定公開の予定)(平成33年度)

### ④その他

- 1) 日本で開催するウィーン世界博蔵シーボルト(子)収集日本関連資料展の図録刊行(平成33年度)
- 2) ウェールズ国立博で共催する日本特別展の図録刊行(平成29年度)
- 3) ジュネーヴ版画博で共催する日本絵画(摺物)展の図録刊行(平成31年度)
- 4) アリアナ美術館で共催する日本陶磁展の図録刊行(平成32年度)
- 5) 企画展示の内容を中心に、本プロジェクトの目的や進捗状況、研究成果を報告するためのニューズレター的な刊行物の発行を検討中(不定期)

## (2) 教育プログラム等

①チューリッヒ大学東アジア美術史学部との協定に基づき、スイスで日本文化や美術を学ぶ学生を対象とする以下の教育プログラムを共同実施する。

- 1) チューリッヒ大学東アジア美術史学部及びルツェルン大学美術デザイン学部で日本文化や美術を学ぶ学生(学部・修士・博士)を対象に、日本美術史(絵画・漆・染織・陶磁など)のワークショップ(又は講義)を毎年継続的に開催する。要望があれば他大学の学生も随時受け入れる。
- 2) ウィーン世界博(絵画)とアリアナ美術館(陶磁器)でチューリッヒ大学大学院生の実習を行うことを教育の一環とする。

②イギリスにおいては、日本文化発信が十分にはおこなわれていない地方の大学博物館及び国立博物館との連携による活動を展開し、在地の日本関係資料を活用した教育プログラム開発のモデルケースとする。

- 1) ダラム大学東洋博物館においては、当館所蔵の日本コレクションを活用した日本文化理解を促進する教育プログラムを、美術・教育学・言語学等を学ぶ学生や研究員と共同開発する。さらに、この事業を地域コミュニティに広げることによって、北東部イングランドの日本資料所蔵機関が応用できる教育プログラムを開発する。当該博物館とは、第2期の日本関連在外資料調査研究事業(研究課題A「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代(19世紀)に日本で収集された資料についての基本的調査研究」)において学芸員や教育普及担当者を対象としたセミナーを共催しており、それを契機に周辺地域の日本コ

レクション所蔵機関で研究会が発足するという波及効果があった。今後ダラム大学東洋博物館と歴博を中心にこれらの研究会が連携し、調査や教育プログラムの開発を共同で進める教育連携ネットワークを構築する予定である。

- 2) ウェールズ国立博における日本特別展の会期中におこなう来館者向け教育プログラムの開発及び実施に、隣接するカーディフ大学の日本学科の学生を参加させ、教育の一環とする。完成したプログラムは、ウェールズ国内の日本資料所蔵機関の学芸員によって応用できるようにする。また、セインズベリ日本芸術研究所、国際交流基金との共催で、展覧会期間中に英国内数カ所で連続講座を開催し、日本展の利用を促進することを検討中である。

### (3) 展示等

歴博は、博物館機能をもつ大学共同利用機関として、すでに第2期の事業においても、調査研究の成果に基づく企画展示を開催している。本プロジェクトでは、具体的には、以下にあげる4テーマを対象とする（主催・共催）が、これらの国際連携展示は、単に共同研究の成果を可視化するのみならず、在外日本資料の活用方法を、現地の担当者とともに探求し、そのモデルとすることを目的としている。

- ① 歴博においてウィーン世界博が所蔵するシーボルト(子)収集日本関連資料に関する企画展示を開催（平成33年度）・日本国内を巡回予定
- ② ウェールズ国立博における日本特別展を共催（平成29年度）
- ③ イギリス・ケルビングロブ美術博物館の常設展示再構築へ向けた協力（32年度完成予定）
- ④ スイスにおける企画展示共催・協力
  - 1) ジュネーヴ版画博で日本絵画（摺物）展（平成31年度予定）
  - 2) アリアナ美術館で日本陶磁展（平成32年度予定）

### 3 研究プロセスの国内外に向けた情報発信

本プロジェクトの活動内容を、日英バイリンガルのホームページに掲載することによって国際的かつ恒常的な情報発信を可能とする。また、ウィーン、英国及び日本国内で行う国際学会については、研究者のみならず各開催地の市民にも公開する。これらの情報発信を通じ、従来日本文化を支えてきた国内外の日本文化愛好者の要望に応えつつ、とくに海外においては、ともすればアニメなどのポップカルチャーに偏りがちな若い日本ブームの担い手たちが、歴史や伝統文化に開眼し日本文化との関わりをより深化させる呼び水としたい。

### 4 若手研究者の人材育成の取組み

#### (1) 海外

海外における日本文化理解の総体を向上させ、日本研究を活性化させるためには、現地スタッフが自前で調査・整理・展示等をおこなうためのノウハウの伝授と人材育成が求められており、長期的に次世代の日本研究者を養成するためのシステム作りが必要である。本プロ

ジェクトは、成果の発信・活用・人材育成へとつながる国際連携調査研究のモデルを構築することを最終目的としている。そこで具体的な取組として以下の2点を中心に進める。

- ① ジュネーヴ版画博・アリアナ美術館における調査資料のデータ化、展覧会の準備にあたって、調査コーディネーターやデータ作成をチューリッヒ大学東アジア美術史学部の大学院生に研修として任せることを通じ若手人材の育成をはかる。
- ② イギリス国内の各機関で日本コレクションの展示や保存管理にあたる担当者のほとんどが、専門外の学芸員、研究者であるという現実をふまえて、本プロジェクトでは、対象とする各地の機関を中心に、地域内のサポートネットワークを構築し、担当者の疑問や要望に応えられるようなシステムを作ることを試みる。ダラム大学では、セミナーや常設の日本展示の検証に、大学のみならず近隣の博物館等の若手研究者に加わってもらい、日本資料を身近に考える機会を提供することから始め、現場が求める人材育成の支援をすすめていく。

## (2) 国内

- ① 連携諸機関の若手研究者を海外調査に同行させ、海外調査研究の実務に携わらせるとともに、シンポジウム・展示等の活用事業の運営・企画に参画させることによって、学問的専門性のみならず、実践能力を備えた若手研究者を育成する。
- ② 研究期間内に開催するシンポジウムや、シーボルト・コレクション国際会議などの関係する学会等にも、積極的に若手研究者を参加させ、将来の国際連携事業を推進しうる経験豊富な若手研究者を育成する。

## 5 全体計画（主要活動）

### 【全体計画】

4チーム（下線付）を設置し、ウィーン・イギリス・スイス所在日本関連資料の共同研究を行う。①総括：学会開催やホームページ（以下「HP」）、刊行物による成果公開などプロジェクト全体を運営、②ウィーン：ウィーンを中心としたシーボルト（子）収集日本関係資料の調査研究、③イギリス：イギリスにおける日本展示活性化事業、④スイス：スイスにおける大学教育連携事業

年 度	取 組 内 容
平成 28 年度	① 長崎でシーボルト・コレクション国際会議を共催、HP公開、ウィーン世界博・ジュネーヴ市・チューリッヒ大学との協定締結 ② ウィーン世界博とブランデンシュタイン家が所蔵するシーボルト（子）収集日本関連資料調査 ③ ナショナルトラスト、ダラム大学との協定締結 ④ ジュネーヴ版画博・アリアナ美術館調査、スイスの学生を対象としたチューリッヒ大学での講義等教育プログラム（以下スイス大学教育プログラム）

平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本国内で日本関連在外資料に関わる国際学会を開催、シーボルト・コレクション国際会議発表</li> <li>② ウィーン世界博とブランデンシュタイン家が所蔵するシーボルト（子）収集日本関連資料調査</li> <li>③ ウェールズ国立博で日本特別展を共催し、展示図録を刊行するとともに関連ワークショップ等の共催もおこなう</li> <li>④ ジュネーヴ版画博・アリアナ美術館・ルツェルン大学資料調査、スイス大学教育プログラム</li> </ul>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ウィーンでシーボルト・コレクションに関する国際シンポジウムを開催、シーボルト・コレクション国際会議発表</li> <li>② ウィーン世界博とブランデンシュタイン家が所蔵するシーボルト（子）収集日本関連資料調査</li> <li>③ 英国北部とナショナルトラストの調査、英国でのセミナーや研修を通じた日本展示関係者の育成</li> <li>④ ジュネーヴ版画博・アリアナ美術館・ルツェルン大学資料調査、スイス大学教育プログラム</li> </ul>
平成 31 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ジュネーヴ版画博で日本版画展を共催、ウィーン国際シンポジウム報告論文集刊行</li> <li>② ウィーン世界博とブランデンシュタイン家が所蔵するシーボルト（子）収集日本関連資料調査</li> <li>③ ダラム大学東洋博物館の日本展示開発、英国北部とナショナルトラストの調査、英国でのセミナーや研修を通じた日本展示従事者の育成</li> <li>④ アリアナ美術館資料調査、スイス大学教育プログラム、ルツェルン大学データベース（以下「DB」）成果公開</li> </ul>
平成 32 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アリアナ美術館で日本陶磁展を共催（予定）、シーボルト（子）収集日本関連資料DBシステム完成</li> <li>② ウィーン世界博とブランデンシュタイン家が所蔵するシーボルト（子）収集日本関連資料調査</li> <li>③ ケルビングローブ美術博物館の日本展示リニューアル、英国北部とナショナルトラストの調査、英国でのセミナーや研修を通じた日本展示従事者の育成</li> <li>④ アリアナ美術館展示、チューリッヒ市内個人漆器調査</li> </ul>
平成 33 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本でウィーン世界博蔵シーボルト（子）収集日本関連資料の企画展示を開催、シーボルト（子）収集日本関連資料DB公開</li> <li>② ウィーン世界博追加調査、ブランデンシュタイン家調査報告書刊行</li> <li>③ 英国ジャパンソサエティ出版局より英国での活動記録を刊行</li> <li>④ スイスで日本紹介をおこなう次世代研究者育成プログラムの報告書刊行</li> </ul>

※展示活動については、主催共催機関の都合によりスケジュールの変更がある。

## 6 計画、報告及び進捗状況の確認

### (1) 年次計画

プロジェクトは、毎年度の研究及び事業の計画（以下「年次計画」という。）を、「日本関連在外資料調査研究・活用」の4プロジェクトの代表者等で構成される推進会議の議を経て、総合人間文化研究推進センター（以下「推進センター」という。）に提出する。

推進センターは、総合人間文化研究推進センター運営委員会の議を経て、年次計画を決定する。

## （2）年次報告

プロジェクトは、毎年度の事業実績報告（以下「年次報告」という。）を、推進会議の議を経て、推進センターに提出する。

## （3）進捗状況の確認

推進センターは、客観的立場からプロジェクトの進捗状況を確認するため、機構長に年次報告を提出し、機構に設置するプロジェクト評価委員会による進捗状況の確認を受けるものとする。進捗確認の結果、推進センターが必要と認めるときは改善措置を講ずるよう、プロジェクトに助言する。